

初めてペットを飼って気づいたこと

白山中学校 二年 川島 遼一

小学五年生の時、沢山のペットを飼っている友達がいました。家にペットがいたら楽しいだろうなどという憧れがずっとあったので、初めてペットを触らせてもらって、僕も飼いたいと思うようになりました。

次第に、ペットを飼ってみたいという思いがどんどん膨らんでいきました。インターネットで調べたところ、ハムスターなら小さいし、両親も飼うのを許してくれるのではないかと思いました。すると、母もちょうど小学五年生の頃にハムスターを飼っていたと話してくれ、父も子どもの頃にペット禁止のマンションで暮らしていたので、ずっと飼ってみたかったと家族も賛成してくれました。

冬、僕は父と弟と一緒に、ペットショップへ行きました。売り場には、沢山のハムスターがいるケージもあれば、一匹しかいないケージもありました。

僕はその一匹がとても気になり、自分のおこづかいでそのオスのジャンガリアンハムスターを迎え入れました。そして、僕の生まれて初めてのペットになりました。

帰りの車では、ハムスターが入った箱が揺れないように両手でしっかり持ちました。家に帰り、ハムスターをケージに入れてブランコから落ちた様子がとてもかわいく、弟が「今ぼてって落ちたから名前はポテがいいんじゃない?」と言い、みんなが賛成して名前をポテにしました。

ユーチューブでハムスターの動画を見ると、触ったり、手の平に乗せたりしていたので僕も触ろうとしたら、指を噛まれてしまいました。簡単に触れるものと思っていたので、これからどうやって育てたらいいのだと途方に迷っていました。ネットで調べたところ、ハムスターは新しい環境や、嗅いだことのない匂いに恐怖を感じて噛むことがあるようです。まず僕の匂いに慣れてもらい、危険ではないことを認識してもらわないといけないと思い、しばらくは、匂いのない軍手を使って世話を続けました。

軍手をはめての世話を一ヶ月続けると、父から「そろそろ軍手を外さない」と素手で触れなくなる。」と言われましたが、噛まれたときの怖さと痛みが甦り、なかなか軍手を外せませんでした。ある日、意を決して素手で触ったらまた噛まれてしまい、心が折れそうになりましたが、それでも世話を続けました。そして、半年もたった頃、匂いに慣れてくれたのか、噛まれなくなりました。

ポテが家に来てからポテは家族にとってとても大切に、大きな存在になっていました。

ハムスターは気温の変化に敏感なので、自分たちの快適さよりもポテの快適さを一番に考えて生活するくらい、一生懸命世話をしました。

ハムスターの平均寿命は二〜三年と言われている通り、ポテも僕の家に来てから一年十ヶ月後に天国に旅立ちました。僕が中学一年生の時でした。冬休みだったので、家族みんなが家にいて、その姿を見て僕は大泣きしました。父は「ずっと一匹でいたところを家に連れてきて、大事にしてもらったんだからポテは幸せだったときっと思ってる。」と言ってくれました。

僕は中学二年生になり、ポテが旅立って半年が経ちました。約二年という短い間でしたが、ポテを育ててみて本当にたくさんのことを学びました。確かに短かったけれど、僕にとっではとても充実した時間でした。ポテから学んだことを忘れず、僕を支えてくれた家族や友達、クラスの仲間を大切に、そして感謝しながら、これから精一杯生きていきたいと思えます。